

音声を伴う読解指導の実践

—音読活動を中心に—

市立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (外国語)

1 研究の背景と目的

英語Ⅰや英語Ⅱの授業で本文の内容を理解した後、英文を声に出して読む活動を行ってきた。しかしながら、これまでの授業における音読指導は目的が定まっておらず、まとめとして読む程度であった。せいぜい一回の授業で5分程度読む機会があるくらいである。また、生徒が音読するのを聞くと、スムーズに読むことができず、個々の単語の発音がわからず止まってしまう生徒もいる。そういった生徒は実は内容の理解も浅いことが多い。目標を明確にして音読を行うことで内容理解や語彙の理解が深まるだろうと考えられる。また、語句を正しく発音できるかを確認し、意味のまとまりごとに意識的に読むように練習を積み、同じテキストを繰り返し読むことにより単語認知の自動化が進み、それにより語彙の理解定着や内容理解の深化が図られるのではないだろうか。

英文を読むにあたっては、音声を伴わせることにより内容の理解度も増すとされている。読解の助けとして音声を聞かせることは有効であろう。また、本校の生徒達は声に出すことには抵抗を感じず、課題に素直に取り組もうとする生徒も多い。そのような背景を元に、授業の中で音読の時間を多く充て、さまざまな方法を試みることで、新出単語を中心とした語句を正しく発音し、本文の内容理解と英文の定着を図ることができ、理解した内容を表現することができる、英語をスムーズに読めるようになる、読めるようになりたいというモチベーションの向上などの効果を期待できるのではないかと考えた。また、音読に時間を割くための授業展開の工夫についても探っていきたい。

2 研究仮説

2.1 研究仮説1

音声面、意味に意識を集中させながら音読を行っている学習者は文章の内容把握もよくできているという。よって、目的をもった音読活動により、内容理解が深まるだろう。

2.2 研究仮説2

様々な方法で音読を繰り返し、読めることを実感するようになれば、英語を声に出すことへの抵抗感が低くなり、英文を積極的に読もうとする意欲の向上につながるだろう。

3 研究方法

3.1 先行研究調査、文献研究

3.2 授業実践

3.2.1 基礎的な音読活動

①英文を見ながらCDまたは教員のあとについてリピート

②英文を見ずにCDまたは教員のあとについてリピート

③英文を見ながらシャドウイング

④英文を見ずにシャドウイング

⑤英文を見ながら自分のペースで読む

3.2.2 発展的な音読活動

①意味のまとまりごとにスラッシュを入れ、そこを意識して音読練習

まず個々の生徒が自分の考える意味のまとまりごとにスラッシュを入れる。その後、教科書の付属 CD によって区切られるまとまりを模範として、色ペン等を使い、自分自身のスラッシュと違った場合、訂正のスラッシュを入れる。音読練習の際には模範とされるスラッシュごとに区切りながら音読をする。

②ペアになり相手の音読に続いてリピート

自分の相手がリピートしやすくなるように、正確にしっかり発音することを心がけるよう指導する。交互に行う。

③ペアになり相手の音読を評価する

相手に読みやすかったか、読みにくかったか、具体的に示せる箇所があればそれを伝える。

④英文中に空欄を設け、その英文を見ながらリピートする

CD、教師に続いて行う、またはペアになり行うなどし、最後に、空欄があってもきちんとリピートできるか確認するために全員が起立し、リピートできない箇所があったら着席するというゲーム形式の活動を行う。その際、着席しても途中で止めるのではなく、音読を続けるように指導する。

3.2.3 英問英答、要約活動（日本語及び英語）

3.3 検証方法

3.3.1 プレテスト、ポストテストの実施（音読テスト、口頭、筆記による内容理解テスト）

3.3.2 音読活動に関するアンケート

4 研究計画

4.1 対象生徒

平成 22 年度 1 年生普通科 2 クラス 81 名、商業科 1 クラス 41 名

平成 23 年度 2 年生普通科 2 クラス 83 名（実験群 42 名、統制群 41 名）

4.2 指導科目

平成 22 年度 英語 I（教科書）PowWow English Course I

平成 23 年度 英語 II（教科書）PowWow English Course II

4.3 指導計画

平成 22 年 6 月から 8 月	・ 先行研究調査、文献研究・音読活動に関するアンケート 1（7 月） ・ 授業実践 1（従来型の授業からの移行期）
-------------------	--

平成22年9月から 平成23年3月 (試行実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践2 <p>授業時間のうち、10分から15分を音読活動に充てる。 基礎的な音読活動①から⑤の方法を適宜取り入れ音読を繰り返す。 各パートのまとめの段階では発展的な音読活動①から③を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読活動に関するアンケート2 (3月)
平成23年3月から4月	平成22年度の実践，生徒のアンケート調査を受けての研究計画の修正
平成23年5月から11月 (本実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレテストの実施 (5月) ・音読活動に関するアンケート3 (7月) (実験群) ・授業実践3 <p>音声を聞きながら読み，数行ごとに内容を日本語でまとめる。 基礎的な音読活動のうち，英文を見ながらの音読活動。 発展的な音読活動。 内容に関する質問を聞き，答える (筆記，口頭)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読活動に関するアンケート4 (11月) ・ポストテストの実施 (11月)

5 研究実践

5.1 平成22年度

7月までは，音読をすれば英文が理解できるようになるのではないかと考え，従来の授業からの移行として，これまでの授業より音読をする時間を多く設ける授業を行った。生徒のアンケートにも見られるように，先に内容理解をした上で，音読活動を多く取り入れることで，語句や理解した英文の定着が図れ，さらには内容に関して答えたり，要約をすることの助けになるのではないかと考え，9月以降の授業では英文導入後，本文の内容を一通り確認してから音読活動に入ることとして授業を展開した。

5.1.1 授業展開例 (1レッスンの1パート)

1 時間目

- ・新しい英文の導入
- ・新出語句の確認，本文内容の理解
- ・音読活動

2 時間目

- ・ハンドアウト上の英文を音読し，自分の読めない単語を書き出す。板書し，音の確認を行う。
- ・自分で読みながら，ハンドアウトに意味のまとまりと思われる箇所にスラッシュを入れる。
- ・全体でスラッシュを入れるべき適切な箇所はどこになるか確認する。
- ・スラッシュ間の意味を日本語でハンドアウトに書く。
- ・スラッシュを意識しながら音読を行う。
- ・ペアで音読を行う。

3 時間目

- ・音読活動①から⑤，ペアでの音読，英問英答（筆記）を行う。
- ・次パートの英文の導入

この授業展開で，気付いたことは，一斉で音読活動を行った後でも個々に読むと読めない語がでてくる生徒が多いことである。読めない語としては新出語，活用した動詞，形容詞，つづりの長い語が多く挙げられた。

5.1.2 音読活動についてのアンケート1・2（7月(122名)，3月(112名) 実施)

(3月は全員にアンケート調査ができなかった為，7月との比較として百分率にて表示する。)

音読全般について

①音読は好きか

	好きである	好きでない	どちらでもない
7月	25.4%	30.3%	44.3%
3月	25.9%	35.7%	38.4%

②音読は英語力を上げるのに役立つか

	思う	思わない	どちらでもない
7月	86.9%	1.6%	11.5%
3月	86.6%	1.8%	11.6%

③音読後本文の内容が理解できたか

	できた	多少できた	できなかった
7月	21.3%	72.1%	6.6%
3月	24.1%	71.4%	4.5%

④音読への取り組みはどうだったか

	頑張って読もうとしている	読めない時には諦めてしまった	あまり読もうとしなかった
7月	57.4%	40.2%	2.4%
3月	50%	44.6%	5.4%

⑤どの音読活動が効果的だったか

	本文を見ながら読む	本文を見ずにリピート	空欄がある英文を見てリピート
3月	44.7%	10.7%	44.6%

個々の音読活動について

①本文を見ながらリピートする

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
7月	21.3%	62.3%	15.6%	0.8%
3月	21.4%	60.7%	16.1%	1.8%

②本文を見ずにリピートする

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
7月	0.8%	27%	60.7%	11.5%
3月	3.6%	27.7%	60.7%	8%

③本文を見ながらシャドウイングする

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
7月	18.9%	53.3%	23%	4.8%
3月	16.1%	53.6%	25%	5.4%

④本文を見ずにシャドウイングする

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
7月	0%	13.1%	61.5%	25.4%
3月	2.7%	15.2%	65.2%	17%

⑤自分のペースで読む

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
7月	30.3%	63.1%	4.1%	2.5%
3月	28.6%	58%	11.6%	1.8%

⑥本文中に空欄がある英文を見ながらリピートする

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
3月	30.3%	63.1%	4.1%	2.5%

⑥ ⑤の理由を問う自由記述の質問（3月）

本文を見ながら読むのを効果的だと考える生徒には，英文が目に触れることにより安心して読むことができ，自信がない中では英文がないと読むことが厳しくなるからだと感じている生徒が多い。これと同様に多くの生徒が効果的だと考えたのは空欄がある英文を見てリピートすることであるが，しっかり聞こうする意識が強く働き，自分がどれだけできるか測ることができることを理由に挙げる生徒がいた。

⑦英文を読むときに何を気をつけようと思いつつながら読んでいるか。（自由記述）

7月の調査では発音に気をつけるという回答が一番多く，区切りを意識する，内容を理解しようとする，本文の少し先を意識するといった回答が見られたが，3月では内容を意識するように読むという回答が7月よりも増えた。

⑧音読を続けたら英語の力はつくと思うか。（自由記述）

7月の調査ではつくと思うと答えた生徒は多かったが，内容を理解していないと空読みになってしまうのではいかという指摘をした生徒が数名いた。3月でもつくと思つた回答した生徒は多く，その理由としては英文が頭に入るからとするものが多かった。一方で，音読には内容理解を伴う必要があることを記述する生徒も多かった。

大半の項目において、7月と3月での大きな変化が見られなかったが、個々の音読活動の達成具合をみると、本文を見ずに行う音読活動において「できた」、「ほぼできた」と回答した生徒が若干増えた。しかし、依然として本文を見ないで行う音読活動をうまく達成できたと感じる生徒は少ない。3月には空欄のある英文を使って音読したことへのアンケート項目を加えたが、それについては効果的だったと考える生徒が半数近くいた。これらから、テキストの助けがある音読活動の方が本校の生徒の実態に合うのではないかと考える。また自由記述の質問の回答から、空欄のある英文を読むことは生徒にとってチャレンジであり、英文を覚えたり、内容理解の確認に役立てようとする意識が働くことがわかった。

5.2 平成 23 年度

平成 22 年度に実施したアンケートの結果等を踏まえ、平成 23 年度では授業展開に修正を加える。

卯城(2009)によると、「教師が学習者に「意味に着目しながら音読を行いましょう」との指示を行った場合、その効果がある」という。実際、生徒のアンケートからもわかるように「ただ読んでいるだけでは内容は分からない」と考える生徒もおり、音読をさせる際には意識点を明確にすることが効果的な音読につながると思われる。

門田・多田(1992)によれば、英文の読解には「句が読解の際の基本的な情報処理単位である」という。英文のスラッシュを入れ、そのかたまりを単位としてそこに着目しながら英文を読んだり、リピートすることは内容理解を深めるためには効果的であろう。

また、Sticht and Glasnapp(1972)では、テキストの内容を聞いてから、その内容のリーディングテストを受けた方が内容理解テストの結果は良くなる、という。平成 23 年度では、聞きながら読む活動を取り入れ、内容理解を促し、さらに音読活動では着目点を意識させ、様々な音読方法を通じて内容理解を深め、その内容を生徒が答えられるような授業を実践する。

5.2.1 プレテストの実施（5月実施）

音読にかかる時間、発音できない語数の調査を2種類の英文(既習英文と英語検定準2級の二次試験の英文)とで行う。またその内容に関する質問について答える。

音読の録音、口頭質問はコンピュータ上で一斉に行い、録音されたものを分析した。録音の際、お互いの解答が聞こえてしまい妥当性が薄くなってしまったが、内容に関する質問の正答率が高い生徒が音読時間も短く、正しく発音できない語も少ないことがみて取れた。特に正しく発音できることは内容の理解度と相関が高いことが窺えた。

5.2.2 授業展開（1レッスンの1パート）

1 時間目

- ・新しい英文の導入
- ・新出語句の確認、音声聞きながら本文を読み、3～4行ごとに日本語で要約することにより概要を知る。
- ・音読活動

2 時間目～3 時間目

- ・自分で読みながら、ハンドアウトに意味のまとまりと思われる箇所にスラッシュを入れる。

- ・全体でスラッシュを入れるべき適切な箇所はどこになるか確認する。
- ・本文内の文法項目の説明
- ・スラッシュ間の意味を日本語でハンドアウトに書く。
- ・スラッシュを意識しながら音読を行う。

4 時間目

- ・音読活動①から⑤，ペアでの音読，英問英答（筆記）を行う。
- ・次パートの英文の導入

音声を聞きながら本文を読み，要約する活動について

導入，新出語句の確認をした後，1パートを2，3行ごとに5つから6つのまとまりに分ける。生徒はCDによる音声を聞きながら本文を読み，日本語で内容をまとめる。一つのまとまりごとに教科書を閉じ，まとめるようにするが，新出語句のリストは見てもよいこととする。まとめる段階まで行かなくても，理解できたと思うことはできるだけ書くように指示する。一通り終わった後，もう一度本文全体を，CDを聞きながら読み，補足できるのであれば書き加える。

この活動は生徒にとっては難しいようであったが，素早く概要をとらえようとし，それをまとめることにより次に内容を詳しく理解するための助けになった。一度教科書を閉じ，内容をまとめるように指示をしたが，それでは対応しきれず，教科書を見ながらまとめてしまう生徒も見られた。その点については，個々の生徒の差があるため，特に閉じることを促さず，なるべく聞きながら読んだときに理解したことをまとめるよう助言するにとどめた。

最初の段階なので，多くの生徒が同じ箇所で人物関係などを全く違ったようにとらえてしまうことが見られるなどしたが，文の構造が難しいところや内容把握のしづらいところなどを生徒自身も気づくことができた。また，ノートを回収し，内容把握の程度を確認した。生徒同様，教員の側も理解しやすい箇所としにくい箇所を知ることができ，その後の指導にも役立てることのできる活動となった。

ブランクのある英文を活用したペアでの音読について

英文の中に空欄のないハンドアウト(A)と空欄のあるハンドアウト(B)を用意し，空欄のあるハンドアウトを見ながらリピートする。

- ①空欄のない英文を使って全体で音読をする。
- ②空欄のあるハンドアウトをみながら全体で教員の後に続いてリピートをする。
- ③ペアになり読み手とリピートする側に分かれ，読み手は空欄のないハンドアウトを読み，もう一方が空欄のあるハンドアウトを見ながらリピートする。それを交互に行う。
- ④生徒は起立し，教員が英文を読み生徒は空欄のあるハンドアウトを見ながらリピートをする。生徒はリピートし切れなかったら着席をする。ただし，着席しても読み続けるようにする。

ペアでの活動では読み手もしっかり読まないといけなかったので，発音イントネーションなどの注意を喚起することができた。また，読み手の生徒が読めない語があるときには生徒同士で教え合う様子もみられた。全体で行ったときには誰が最後まで読めるか，競争のような要素もあり，回数を重ねるごとに起立したまま最後まで読み切れる生徒が増えた。

●音読用ハンドアウト例

<p style="text-align: center;">For reading aloud (音読用)</p> <p style="text-align: center;">LESSON 1 GREENING MOVEMENTS AROUND THE WORLD A</p> <p>Part 1 In 1954, / Jean Giono, / a French writer, / wrote a story about an elderly man. // In the story, / the man plants 100,000 acorns / in a large barren area. Over time, / the acorns grow into big oak trees, / making a beautiful forest. // Water flows in brooks again, / and birds and small animals return. // People come back to enjoy the beauty, too. // The story is easy to read / and is loved all over the world. // It tells us / how important planting trees is. Forests work as "lungs" of the Earth, / taking in CO2 and giving off O2. // To our regret, however, / more than 50 percent of the forests in the world / disappeared during the last century. // What should we do?</p> <p>Part 2 One day in 1985, / Omar Castillo, / a Mexican boy, / learned / that the rain forests in southern Mexico / were disappearing. // In order to see the destruction of the forests / with his own eyes, / he walked 1,400 kilometers / from Mexico City down to the rain forests. // Omar was very sad / that most of the rain forests were now ranches. // He asked the President / to stop cutting them down. In 1987, / this story was published in Sweden. // It moved Swedish children / to help protect rain forests. // They started a campaign / to buy part of a rain forest in Central America. // Within two years, / their initial six-hectare purchase / grew to more than 7,000 hectares. // Today, / people in Britain, / Germany, / Canada, / the U. S., / and Japan / are members of this campaign.</p> <p>Part 3 The Oze Wetlands / are famous for their rich biodiversity. // Now / the wetland area / is on the Ramsar site list. // That means / its nature should be kept intact. However, / it is a real effort / to preserve the environment of the wetlands. // Since millions of people visit there every year, / boardwalks, / visitors' centers, / and comfort stations / have to be built and maintained. // Many volunteers, / including Oze High School students, / take part in the work. The students know / that it is also important / to protect the forests surrounding the wetlands. // The forests play the role of a barrier / against the increasing numbers of hikers / and wild animals. // Actually, / the students have been planting beech trees / in the forests for years. // One of the students says, / "I'm sure / it's our responsibility / to keep nature as it is."</p> <p>Part 4 In 1977, / Wangari Maathai began a movement / to save Africa's forests / by planting seven trees in her yard. // Maathai formed a women's group, / and little by little / they planted trees across Kenya / and other African countries. // The movement was difficult to continue, / but Maathai was sure / it would help the environment. // Now, / it is called "The Green Belt Movement." // It has grown into the largest tree-planting project / in Africa. On December 10, 2004, / Maathai was awarded the Nobel Peace Prize / for her tree-planting efforts. // For the first time in history, / environmental work was rewarded / with the Peace Prize. How is protecting the environment / related to peace? // "The environment is very important / for world peace. // When we destroy our resources / and our resources become scarce, / we fight to get them," / Maathai answers.</p>	<p style="text-align: center;">For reading aloud (音読用)</p> <p style="text-align: center;">※聞き取り用ではないので、 _____ には書き込まないこと</p> <p style="text-align: center;">LESSON 1 GREENING MOVEMENTS AROUND THE WORLD B</p> <p>Part 1 In 1954, / Jean Giono, / a French writer, / _____ a story _____ . // In the story, / the man _____ / in a large _____ . Over time, / the acorns grow into big oak trees, / _____ . // _____ in brooks again, / and _____ and _____ . // People come back to _____ , too. // The story is _____ / and _____ all over the world. // It tells us / _____ . Forests work as " _____ " of the Earth, / _____ and _____ . // To our regret, however, / _____ of the forests in the world / _____ during the last century. // What should we do?</p> <p>Part 2 One day in 1985, / Omar Castillo, / a Mexican boy, / _____ / that the _____ in southern Mexico / _____ . // In order to _____ / with his _____ , / he walked 1,400 kilometers / from _____ down to the _____ . // Omar was _____ / that most of the rain forests were now _____ . // He _____ the _____ / _____ them down. In 1987, / this story _____ . // It _____ Swedish children / _____ . // They started a _____ / to _____ in Central America. // Within two years, / their initial six-hectare purchase / _____ . // Today, / people in Britain, / Germany, / Canada, / the U. S., / and Japan / are _____ .</p> <p>Part 3 The Oze Wetlands / are _____ . // Now / the wetland area / is on the _____ . // That means / its _____ should _____ . However, / it is a _____ / to _____ the _____ of the _____ . // Since millions of people visit there every year, / boardwalks, / visitors' centers, / and comfort stations / have to be built and maintained. // _____ , including Oze High School students, / _____ . The students know / that _____ also _____ / _____ surrounding the wetlands. // The forests play the role of a _____ / against the increasing numbers of _____ / and _____ . // Actually, / the students have been _____ / in the forests for years. // One of the students says, / "I'm sure / it's _____ / _____ ."</p> <p>Part 4 In 1977, / Wangari Maathai _____ / to save Africa's forests / _____ in her yard. // Maathai _____ , / and little by little / they planted trees across _____ . // The movement _____ , / but Maathai was sure / it would help the environment. // Now, / it is called "The _____ ." // It has grown into the _____ / in Africa. On December 10, 2004, / _____ the _____ / for her tree-planting efforts. // _____ in history, / environmental work was rewarded / with the _____ . How is _____ / related to peace? // " _____ / for world peace. // When / and our resources become _____ , / we _____ to get them," / Maathai answers.</p>
---	---

●授業ハンドアウト例

<p style="text-align: center;">Lesson 1 GREENING MOVEMENTS AROUND THE WORLD PART 1</p> <p>Definition(定義)</p> <ol style="list-style-type: none"> old, especially used to be polite () one of the two organs(臓器) in your body that you breathe with () to become impossible to see; to stop existing () land or earth that has no plants growing on it () <p>Part 1 In 1954, Jean Giono, a French writer, wrote a story about an elderly man. In the story, the man plants 100,000 acorns in a large barren area. Over time, the acorns grow into big oak trees, making a beautiful forest. Water flows in brooks again, and birds and small animals return. People come back to enjoy the beauty, too. The story is easy to read and is loved all over the world. It tells us how important planting trees is. Forests work as "lungs" of the Earth, taking in CO2 and giving off O2. To our regret, however, more than 50 percent of the forests in the world disappeared during the last century. What should we do?</p> <p>Grammar L4~L5 the acorns grow into big oak trees, making a beautiful forest. *making a beautiful forest = and make a beautiful forest 「~しながら」「そして~する」(分詞構文) 意味: ドングリは大きなオークの木々へと育ちます, そして _____</p> <p>L7 The story is easy to read. 形容詞 + to不定詞 「~することが...」 意味: その物語は _____ The movement was difficult to continue. 意味: _____</p> <p>L7~L8 It tells us how important planting trees is. S V O O 意味: それは _____</p>	<p>本文の内容</p> <p>In 1954, Jean Giono, a French writer, wrote a story about an elderly man. // 1954年にジャンジオンはフランス人作家である () // In the story, the man plants 100,000 acorns in a large barren area. // その物語の中でその男は() / ()に。 Over time, the acorns grow into big oak trees, making a beautiful forest. // () / ドングリは() / 美しい森を()。 // Water flows in brooks again, and birds and small animals return. // 水が再び() // そして鳥や小さな動物たちが戻ります。 // People come back to enjoy the beauty, too. // 人びともまた, ()。 // The story is easy to read / and is loved all over the world. // () // そして()で愛されています。 // It tells us / how important planting trees is. // それは私たちに教えてくれます ()。 Forests work as "lungs" of the Earth, taking in CO2 and giving off O2. // 森は地球の「肺」()働きます / ()。 // To our regret, however, more than 50 percent of the forests in the world / しかし() / 世界の()が / disappeared during the last century. // What should we do? ()。 // 私たちは何をすべきでしょうか。</p> <p>True or False</p> <ol style="list-style-type: none"> In this story, the man plants ten thousand acorns in a large area. () This story was written by Jean Giono in 1954. () More than 50 percent of the forests in the world disappeared during 20th century. () <p>Questions</p> <ol style="list-style-type: none"> Who is the writer of the story about an elderly man who plants a lot of acorns in a large barren area? _____ What does the story tell us? _____ What do forests take in and give off? _____ <p style="text-align: center;">2- _____ no. _____ name _____</p>
---	---

5.2.3 ポストテスト（11月）、アンケート（7月、11月）の実施

ポストテストでは、プレテストとほぼ同内様の音読テストと内容理解に関する筆記テストを行う。

アンケートは実験群にのみ行い、音読活動全般に関するアンケートと様々な音読活動についてのアンケートを行う。

6 研究評価

6.1 プレテスト・ポストテスト

6.1.1 プレテスト（平成23年5月実施）

- 1 既習英文の音読の録音をし、音読にかかる時間と発音できない語の数の調査をおこなう。内容に関する質問（4問）に答え、正答数を調べる。
- 2 英語検定準2級二次試験の英文を使用し、1と同様のテストを行う。質問数は3問。

6.1.2 ポストテスト（平成23年11月実施）

プレテストとほぼ同様内容で行う。

プレテスト（平成23年5月）

1 Lesson1 Part1 (107語)

	実験群 36名	統制群 40名
平均音読時間	1分9秒	1分17秒
発音できなかった平均語数	2.6語	2.7語
正答数	2.6問	2.8問

2 英検準2級二次試験 (52語)

	実験群 36名	統制群 40名
平均音読時間	37秒	37秒
発音できなかった平均語数	1.7語	1.9語
正答数	1.8問	1.6問

この中で、質問に対する答えが1においては4問正解の生徒と、1問もしくは2問正解の生徒、2においては3問正解の生徒と1問正解の生徒の音読時間と発音できなかった語数は以下のものであった。

1 Lesson1 Part1 (107語)における正答数4問の生徒の音読時間と発音できなかった語の語数

	実験群 7名	統制群 4名
平均音読時間	1分7秒	1分4秒
発音できなかった平均語数	1.1語	0語

1 Lesson1 Part1 (107語)における正答数1.2問の生徒の音読時間と発音できなかった語の語数

	実験群 8名	統制群 12名
平均音読時間	1分14秒	1分25秒
発音できなかった平均語数	8.6語	4.7語

2 英検準2級二次試験 (52語)における正答数3問の生徒の音読時間と発音できなかった語の語数

	実験群 3名	統制群 3名
平均音読時間	33秒	32秒
発音できなかった平均語数	1語	0.3語

2 英検準2級二次試験 (52語)における正答数1問の生徒の音読時間と発音できなかった語の語数

	実験群 9名	統制群 17名
平均音読時間	41秒	40秒
発音できなかった平均語数	2.8語	2.9語

ポストテスト（平成23年11月）

1 Lesson3 Part1 (110語)

	実験群 42名	統制群 41名
平均音読時間	1分1秒	1分3秒
発音できなかった平均語数	1.3語	2.1語
正答数	2.9問	2.6問

2 英検準2級二次試験 (52語)

	実験群 42名	統制群 41名
平均音読時間	30秒	31秒
発音できなかった平均語数	1.7語	2.5語
正答数	1.6問	1.9問

この中で、質問に対する答えが1においては4問正解の生徒と、1問正解の生徒、2においては3問正解の生徒と1問正解の生徒の音読時間と発音できなかった語数は以下のものであった。

1 Lesson3 Part1 (110語)における正答数4問の生徒の音読時間と発音できなかった語数

	実験群 17名	統制群 14名
平均音読時間	58.4秒	53.8秒
発音できなかった平均語数	0.4語	0.5語

1 Lesson3 Part1 (110語)における正答数1問の生徒の音読時間と発音できなかった語数

	実験群 5名	統制群 6名
平均音読時間	59.4秒	1分5秒
発音できなかった平均語数	2.6語	6.7語

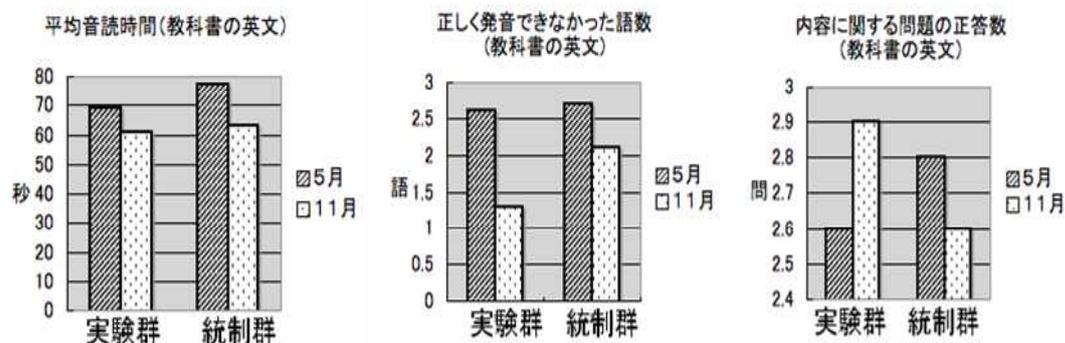
2 英検準2級二次試験 (52語)における正答数3問の生徒の音読時間と発音できなかった語数

	実験群 7名	統制群 1名
平均音読時間	28.1秒	28秒
発音できなかった平均語数	1.1語	0語

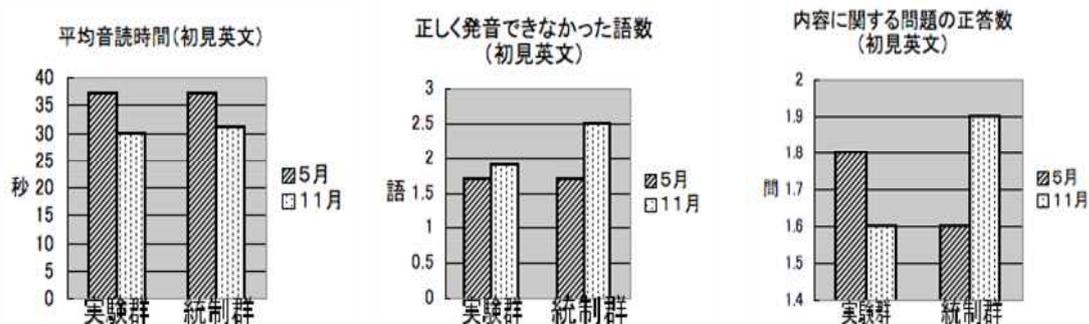
2 英検準2級二次試験 (52語)における正答数1問の生徒の音読時間と発音できなかった語数

	実験群 8名	統制群 12名
平均音読時間	28秒	35.3秒
発音できなかった平均語数	2.1語	3.5語

教科書の英文（既習英文）における「平均音読時間」、「正しく発音できなかった語数」、「内容に関する問題への正答数」の変化（5月：プレテスト、11月：ポストテスト）



英検準2級二次試験問題の英文（初見英文）における「平均音読時間」、「正しく発音できなかった語数」、「内容に関する問題への正答数」の変化（5月：プレテスト、11月：ポストテスト）



6.1.3 考察

プレテストの段階で、実験群の方が読む速度は速かったが、ポストテストにおいてもその傾向は変わらなかった。発音のできない語数は、既習の英文においては実験群は減少幅が大きく、音読練習で読む機会が多かったことが影響しているといえよう。本文の内容に関する質問に対する解答の正答率は実験群において上昇した。音読の速度と語を正しく発音する相関については、プレテスト、ポストテストとも正答数の高い生徒は読む速度も速く、正しく読めない語も少ないことがわかる。このことから、内容理解度と音読の速度、精度には関わりが深いことは認められる。しかしながら、これは平均値において言えることで、個々の生徒の結果を見ると、正答率が高くても読む速度が全体の平均よりも遅い生徒もいた。

6.2 アンケート

6.2.1 音読に関するアンケート3（実験群）平成23年5月実施

音読について、音読活動全般に関する内容と個々の音読活動について質問を行う。

音読全般について

①音読は好きか		
好きである 10名(24.4%)	好きでない 15名(36.6%)	どちらでもない 16名(39.0%)
②音読は英語力を上げるのに役立つか		
思う 34名(82.9%)	思わない 2名(4.9%)	どちらでもない 5名(12.2%)
③音読後本文の内容が理解できたか		
できた 10名(24.4%)	多少できた 27名(65.9%)	できなかった 4名(9.8%)
④本文をいくつかの部分に分け聞きながら読んで要約を行う活動はできたか		
できた 11名(26.8%)	できた部分もあった 28名(68.3%)	できなかった 2名(4.9%)
⑤④の活動を行うことで内容の理解は深まったか		
深まった 11名(26.8%)	かたまりとまとまりがわかるようになった 24名(58.5%)	深まらなかった 6名(14.6%)
⑥音読への取り組みはどうだったか		
頑張っただろうとしている 24名(58.5%)	読めない箇所には諦めてしまった 14名(34.1%)	あまり読もうとしなかった 3名(7.3%)

個々の音読活動について

⑦ 本文を見ながらリピートする			
できた 7名(17.1%)	ほぼできた 23名(56.1%)	あまりできなかった 10名(24.2%)	できなかった 1名(2.4%)
⑧本文を見ずにリピートする			
できた 3名(7.3%)	ほぼできた 11名(26.8%)	あまりできなかった 24名(58.5%)	できなかった 3名(7.3%)
⑨本文を見ながらシャドウイングする			
できた 3名(7.3%)	ほぼできた 21名(51.2%)	あまりできなかった 13名(31.7%)	できなかった 4名(9.8%)
⑩本文を見ずにシャドウイングする			
できた 2名(4.9%)	ほぼできた 10名(24.4%)	あまりできなかった 20名(48.8%)	できなかった 9名(22.0%)
⑪自分のペースで読む			
できた 9名(22.0%)	ほぼできた 20名(48.8%)	あまりできなかった 11名(26.8%)	できなかった 1名(2.4%)
⑫本文中に空欄がある英文を見ながらリピートする			
できた 17名(41.5%)	ほぼできた 17名(41.5%)	あまりできなかった 4名(9.8%)	できなかった 3名(7.3%)

⑬英文を読むときに何を気をつけようと思いつつながら読んでいるか。(自由記述)

大半の生徒が発音、アクセントに気をつけると答えた。その次の区切りや内容に注意していると答える生徒が続いた。この回答は前回と同様であるが、昨年度末よりも音に気をつける生徒が多かった。4月よりクラスが変わり新たに始まったため内容への着目を促しきれなかったとも思われる。

⑭音読を続けたら英語の力はつくと思うか。(自由記述)

8割方の生徒がつくと思うと答えている。その理由には英文が頭に入ってくると挙げている生徒が多い。自然に、無意識に入ってくると感じている生徒が多いようだが、その過程の中で正しく発音ができるようになり、内容も頭に入ってくると答えた生徒もいた。

6.2.2 音読に関するアンケート4 (実験群) 平成23年11月実施

5月とほぼ同じ内容で行う。

音読全般について

①音読は好きか		
好きである 12名(29.3%)	好きでない 13名(31.7%)	どちらでもない 16名(39.0%)
②音読は英語力を上げるのに役立つか		
思う 36名(87.8%)	思わない 2名(4.9%)	どちらでもない 5名(12.2%)
③音読後本文の内容が理解できたか		
できた 9名(22.0%)	多少できた 25名(61.0%)	できなかった 9名(22.0%)
④本文をいくつかの部分に分け聞きながら読んで要約を行う活動はできたか		
できた 12名(29.3%)	できた部分もあった 28名(68.3%)	できなかった 1名(2.4%)
⑤④の活動を行うことで内容の理解は深まったか		
深まった 16名(39.0%)	かたまりとまとまりがわかるようになった 10名(24.4%)	深まらなかった 6名(14.6%)
⑥どの音読が効果的だったか		
本文を見ながら音読する 24名(58.5%)	本文を見ずに音読する 3名(7.3%)	空欄がある中で音読する 14名(34.1%)
⑦音読への取り組みはどうだったか		
頑張っただろうとしている 29名(70.7%)	読めない箇所には諦めてしまった 10名(24.4%)	あまり読もうとしなかった 2名(4.9%)

⑧ 本文を見ながらリピートする			
できた 7名(17.1%)	ほぼできた 23名(56.1%)	あまりできなかった 10名(24.2%)	できなかった 1名(2.4%)
⑨本文を見ずにリピートする			
できた 3名(7.3%)	ほぼできた 11名(26.8%)	あまりできなかった 24名(58.5%)	できなかった 3名(7.3%)
⑩本文を見ながらシャドウイングする			
できた 3名(7.3%)	ほぼできた 21名(51.2%)	あまりできなかった 13名(31.7%)	できなかった 4名(9.8%)
⑪本文を見ずにシャドウイングする			
できた 2名(4.9%)	ほぼできた 10名(24.4%)	あまりできなかった 20名(48.8%)	できなかった 9名(22.0%)
⑫自分のペースで読む			
できた 9名(22.0%)	ほぼできた 20名(48.8%)	あまりできなかった 11名(26.8%)	できなかった 1名(2.4%)
⑬本文中に空欄がある英文を見ながらリピートする			
できた 17名(41.5%)	ほぼできた 17名(41.5%)	あまりできなかった 4名(9.8%)	できなかった 3名(7.3%)

個々の音読活動について

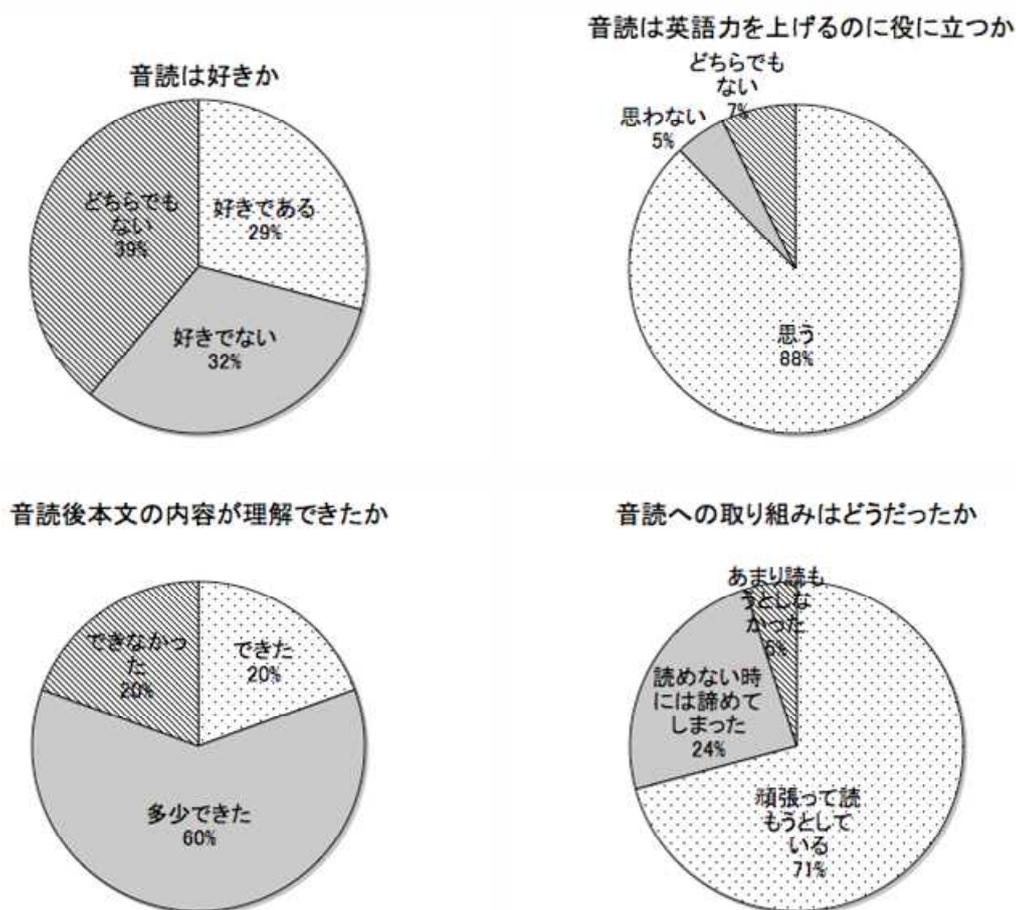
14 英文を読むときに何に気をつけようと思いつながりながら読んでいるか。(自由記述)

やはり、多くの生徒が発音とアクセント、そして音のつながりなどに注意しながら読もうとしていると回答している。また、本文の意味内容に目を向けて読もうとする生徒の回答も多かった。

15 音読を続けたら英語の力はつくと思うか。(自由記述)

5月に行ったアンケートと似た回答が多かった。読んでいる内に覚えていくということを感じている生徒が多い。読みが深まっていくと答えた生徒もいた。

音読活動に関する意識（11月のアンケート調査より）



6.2.3 考察

5月と11月に行ったアンケートには全体としては大きな変化は認められなかった。様々な音読活動の達成感についてはできたと感じている生徒は多少増えている。音読活動は好きか嫌いかなどと言えばそれほど好きではないが、音読をすることが英語力を上げるために役立つと感じている生徒は多く、授業における活動においても頑張るって読もうと努力し、様々な形式の音読活動に積極的に取り組む姿勢は往々に見られた。また自由記述として音読を続けたら英語の力はつくかと言う問いを設けたが、何度も読んでいるうちに内容が頭に入ってきたと答えた生徒が数名いた。また、読みながら内容をさらに理解しようとし、音読の内容理解を深めるための機会と捉える生徒もいた。生徒の意識として音読は内容を一度理解した英文を定着させ、理解

の深度を増すための機会となっているのではないだろうか。

7 結論

音読を中心に音声を積極的に活用することで、内容理解が深まり、英語力の上達につながるだろうと考え、授業を実践した。仮説1「目的をもった音読活動により、内容理解が深まるだろう。」についてはプレテスト・ポストテスト結果からでは支持されるとは言い難い。内容に関する問いの正答率の高い生徒は読みの速度も速く、語句を正しく読むことができる傾向はあるが、そうでない生徒もまたいるからである。しかしながら、音読を繰り返す内に内容が分かるようになってきたと感じる生徒もおり、音読が内容理解の助けにはなるとは言えよう。

生徒のアンケート調査で、音読を続けると英語の力がつくかという質問に対し、そうであると答えた生徒の理由の中で、内容がわかると、また読もうと思うようになるという回答があった。多くの生徒は音読を頑張って行おうとしており、アンケート調査、授業での観察を通じて、「様々な方法で音読を繰り返し、読めることを実感するようになれば、英語を声に出すことへの抵抗感が低くなり、英文を積極的に読もうとする意欲の向上につながるだろう。」という仮説2は支持されると考える。

外山(2007)は「音読は、ことばの形と内容の渾然一体の状態において始まり、その範囲内にとどまることが理想である。」と言っている。これは日本語の読み方における言及であるが、外国語の学習においても当てはまるだろう。音読の指導には、内容理解を伴うことが大切であり、その上で、練習を積み、定着させ、さらに口頭での発話につなげることができることが理想ではなかろうか。今回、研究の機会をいただき、音読活動について深く考えることが出来た。授業における音読活動は、広く取り入れられていることであるが、そのあり方についてはどうあるべきか、今後も効果的な音読指導のあり方について研究し、授業を実践していきたい。

引用文献

卯城祐司編著『英語リーディングの科学』, 2009, 研究社

門田修平・野呂忠司編著『英語リーディングの認知メカニズム』, 2001, くろしお出版

外山滋比古著『読みの整理学』, 2007, 筑摩書房

参考文献

ゾルタン・ドルニエイ著 八島智子／竹内理監訳『外国語教育のための質問紙調査入門』, 2006, 松柏社